

## 第3回調査分析部会 議事要旨

1. 日時：平成25年5月27日（月） 15：00－16：40

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、青木部会長代理、秋山委員、五百木委員、磯部委員、城山委員、橋本委員、渡邊委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、山田宇宙戦略室参事官、深井宇宙戦略室参事官、國友宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 欧州の宇宙政策について

JAXA、SJAC、三菱総合研究所から資料1、2、3に基づいてヒアリングを行った。

また、五百木委員から資料4に基づいて情報提供があった。

主な意見等は下記の通り。

- EUとESA間で宇宙政策の調整が行われてきているが、財政規律の不一致や加盟国間の不調和といった課題も指摘されている。
- 欧州の利用推進の事例として、コペルニクスプログラムにおいて商業アイデアを公募するビジネスコンテスト（コペルニクスマスターズ）が行われている。
- 欧州各国の民事の宇宙予算は、フランス、ドイツ、イタリアが三大主要国となっている。
- リモートセンシング衛星の潮流として大別すると、サブメートル級の高分解能、分解能2m程度、分解能10m程度とカテゴライズできる。
- 英国DMCii社のように衛星のコンステレーションに様々な国が参加するという形態や、米国Skybox imaging社のように安価で大量に打ち上げて高頻度に観測するという新しいビジネスモデルが出てきている。
- EUとESAの間でEUによる社会的課題解決のニーズの吸い上げや予算の調整がどのように行われているのか、優先順位はどのように決められているのかといったメカニズムについて今後調査が必要である。
- 衛星画像のアプリケーションに関する利用拡大のために取られている戦略について、コペルニクス計画などを進める欧州を中心に調べる必要がある。

以上